

2015-4-3 ネコの結腸

鶏病理 戸澤 世利子

提出機関： Veterinary Medical Diagnostic Laboratory,
University of Missouri

症 例： 飼い猫、8歳、短毛、去勢オス

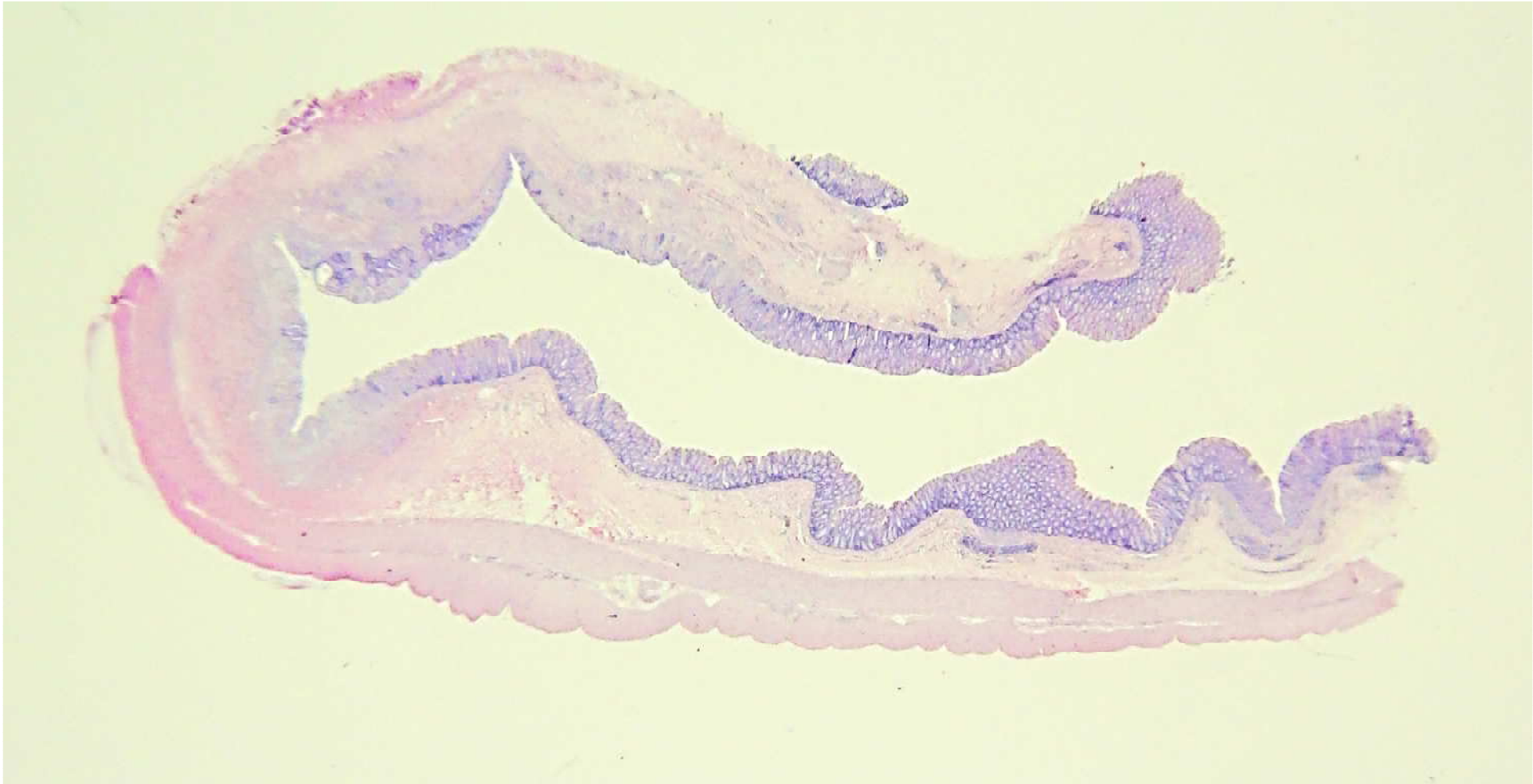
病 歴： 栄養学研究のため長期間群飼育
黄疸および食欲低下を呈し、安楽殺

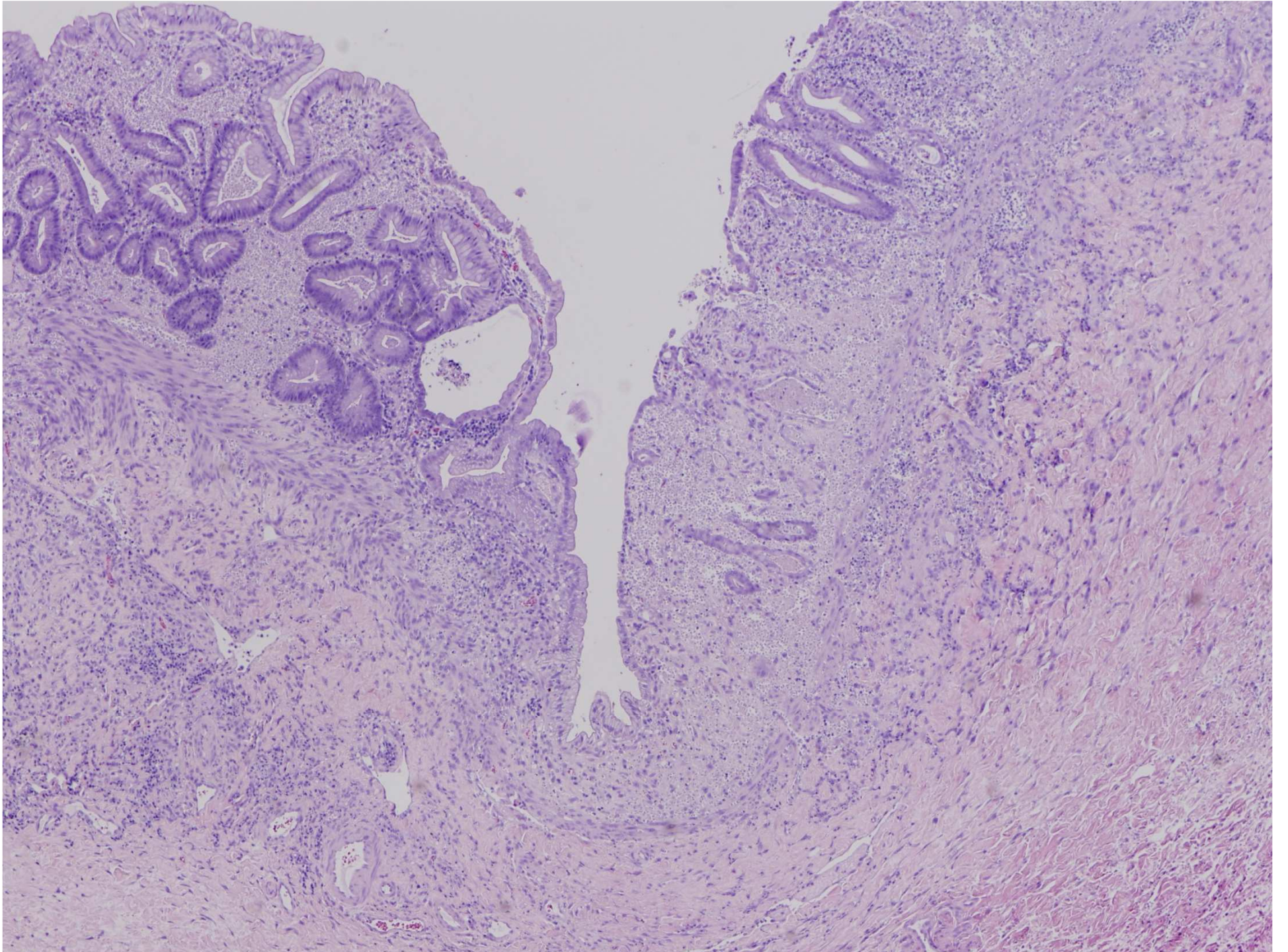
肉眼所見： 結腸を含め著変なし

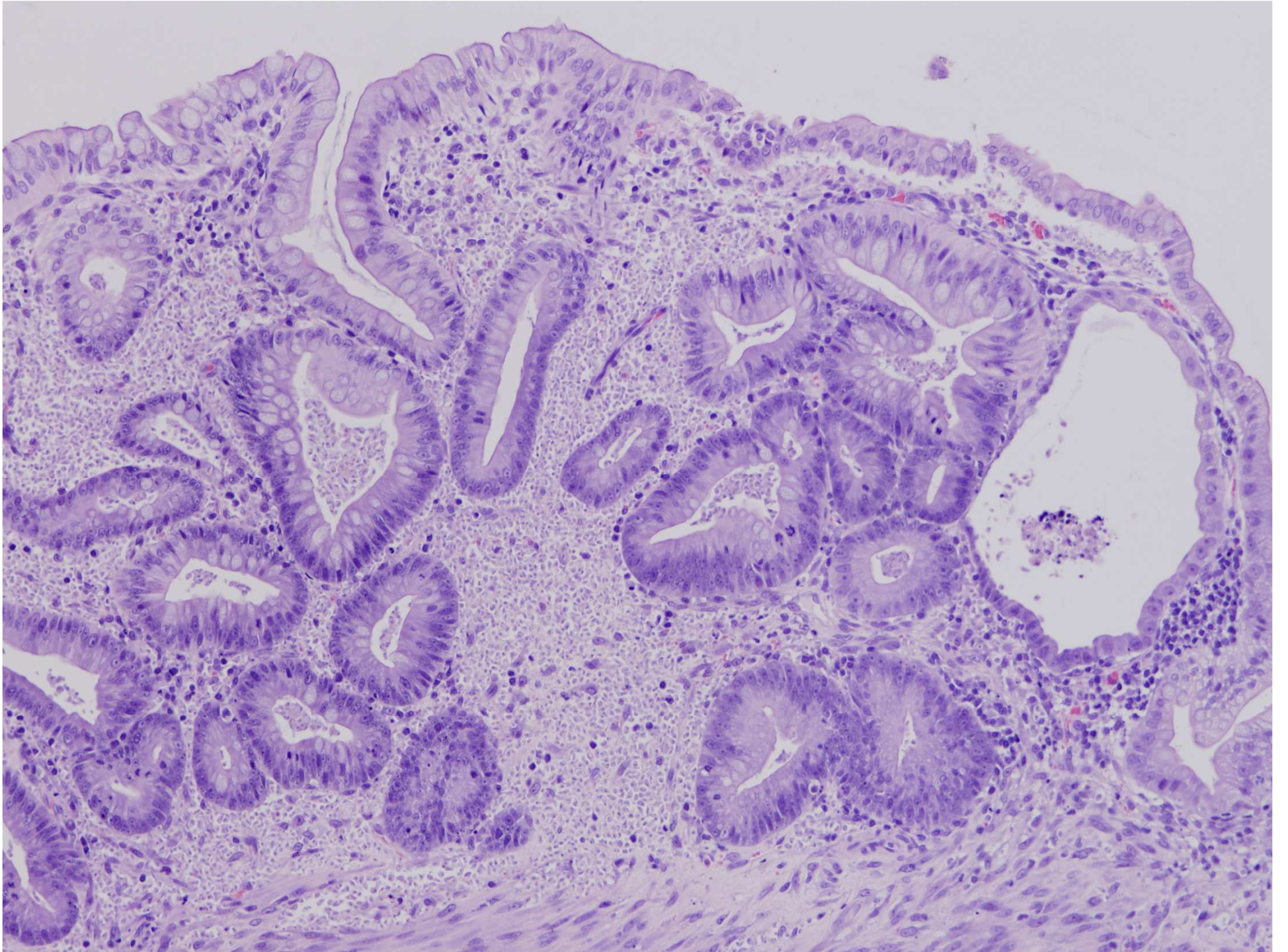
検査結果： 脾臓からネココロナウイルス抗原検出
結腸病変部の真菌染色陰性

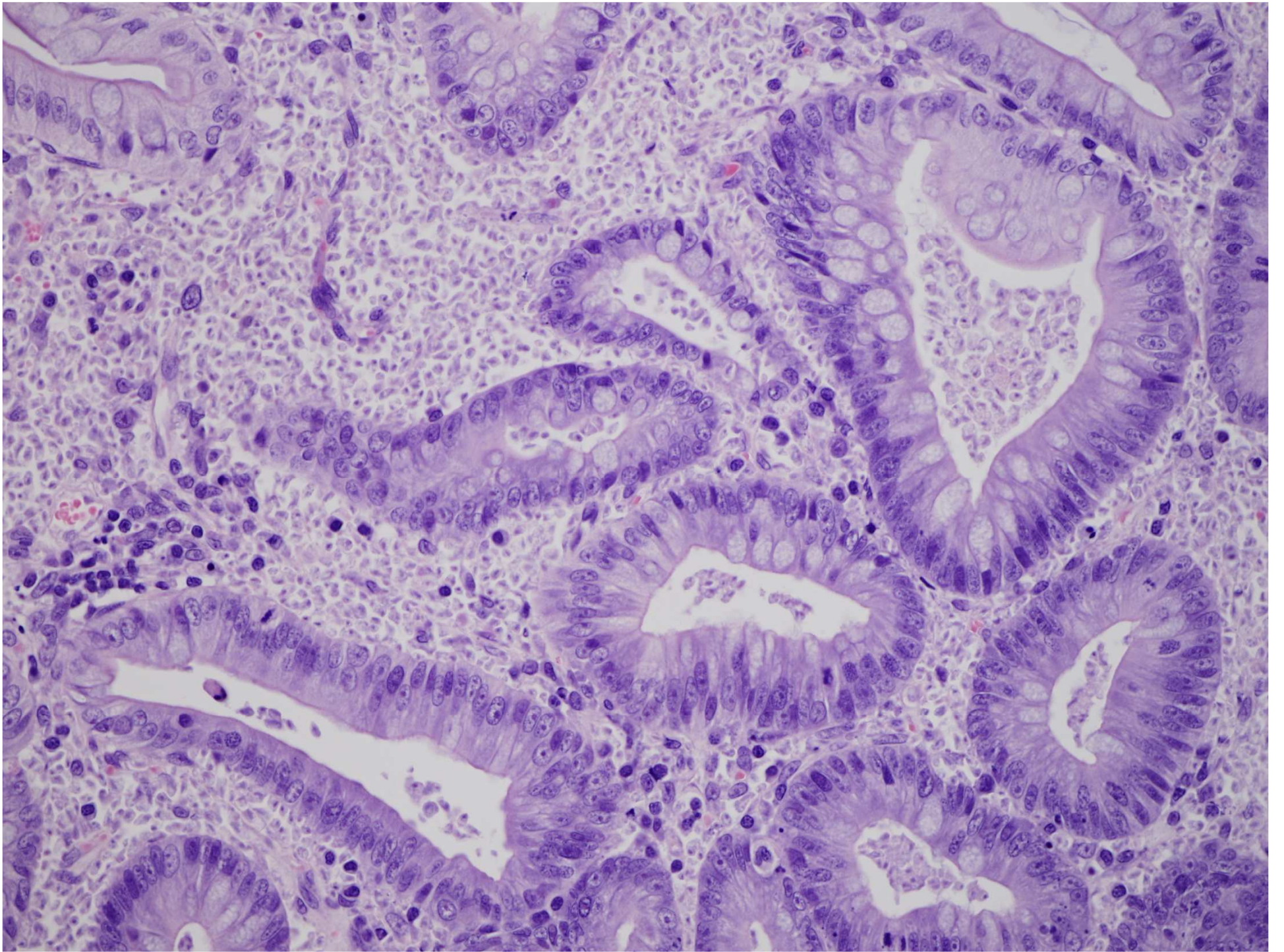


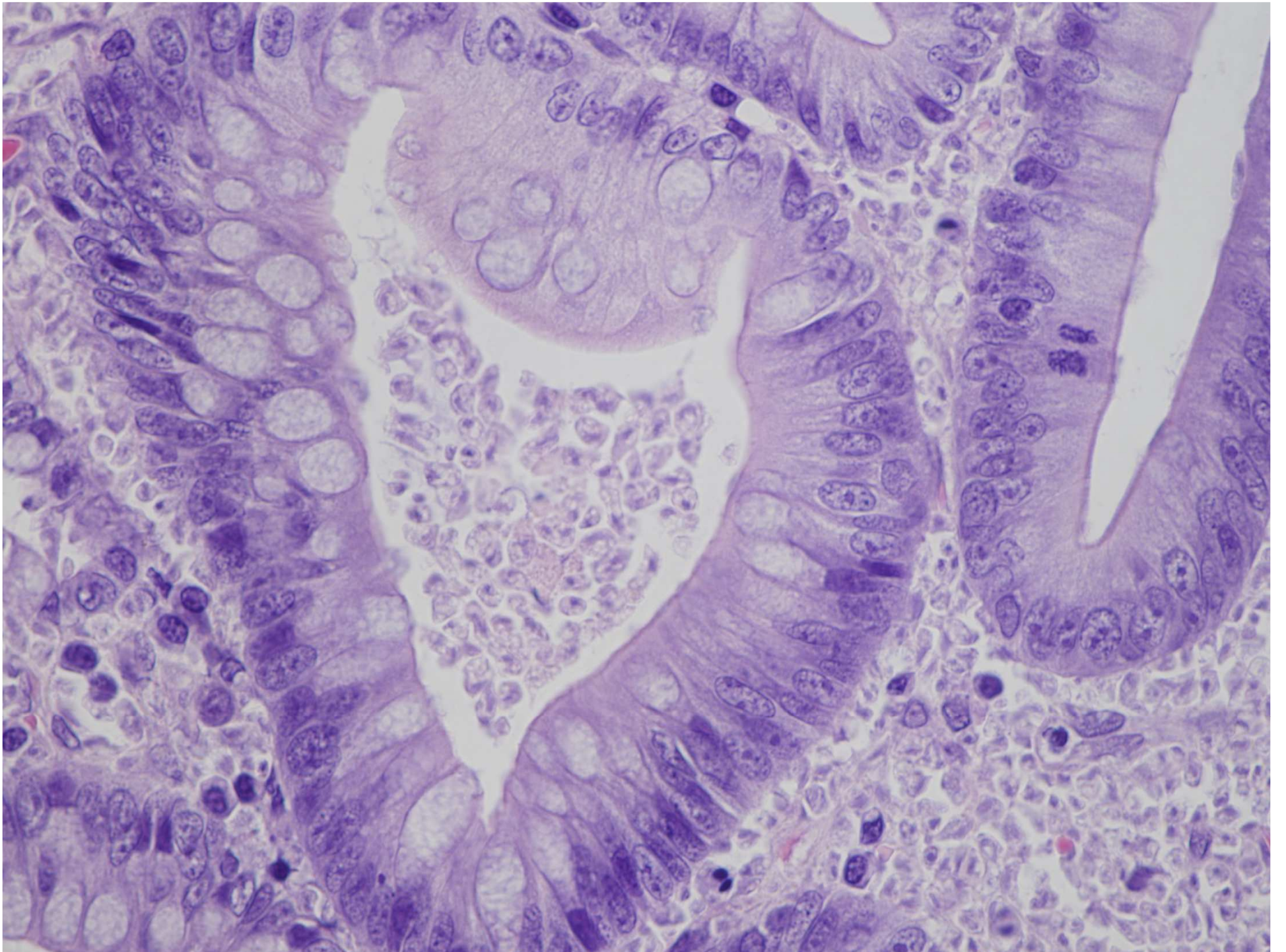
出典
wikipedia

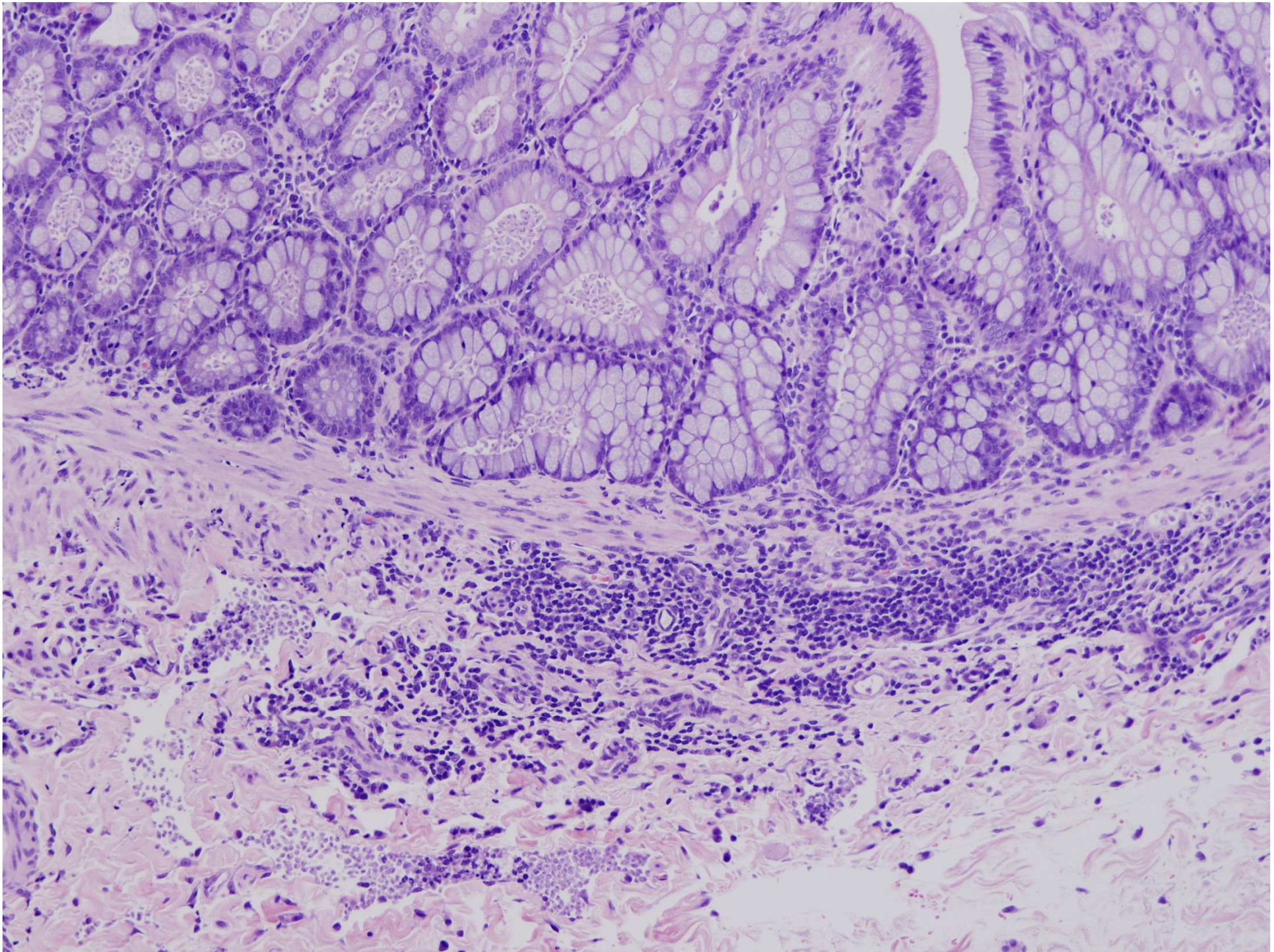












提出者の診断

結腸：多数の*Tritrichomonas foetus*と一致する原虫を伴う
局在的に全層性の壊死性および化膿性結腸炎

Colon: Colitis, necrotizing and suppurative, locally transmural, with numerous protozoal organisms consistent with *Tritrichomonas foetus*.

JPCの診断

大腸：細胞内および細胞外に多数のトリコモナス感染を
伴う重度の多発性～癒合性の壊死性結腸炎

Large intestine: Colitis, necrotizing, multifocal to coalescing, severe with numerous intra- and extracellular tritrichomonads.

提出者のコメント

T.foetus の各動物種に対する病原性

- ・ 猫：慢性的な大腸性下痢原因として重要
- ・ 牛：早期流産や不妊を引き起こす
- ・ 豚：鼻腔や消化管に常在

猫の*T.foetus*感染症

- ・ 若齢の密飼いされた個体で発症し、純血種で好発
- ・ 症状は平均135日間の下痢、食欲低下、元気消失
- ・ 治療はロニダゾールによるが効果は限定的か皆無、再発

*T.foetus*自然感染猫の組織病変に関する報告

- ・ 粘膜固有層でリンパ球、形質細胞、小数の好中球が増加
- ・ *T.foetus*は、涙滴状～三日月状で、鞭毛は観察されず
粘膜面に付着し、陰窩内には比較的少数
結腸切片の56%で観察
- ・ 一部の個体にトリコモナスを含む潰瘍形成

会議のコメント

本症例の組織所見

- ・非常に多数のトリコモナスが粘膜表層・深層の結腸腺腔内、細胞内・外、粘膜下層にみられたことが印象的
- ・トリコモナスが粘膜深層に侵入している点で本症例は珍しい
- ・結腸腺の有糸分裂像は再生の証拠
- ・複数の部位では杯細胞が過形成

猫の腸管トリコモナスの最新知見

- ・ *Pentatrichomonas hominis*: 常在性
- ・ *Tritrichomonas foetus* : 大腸性下痢

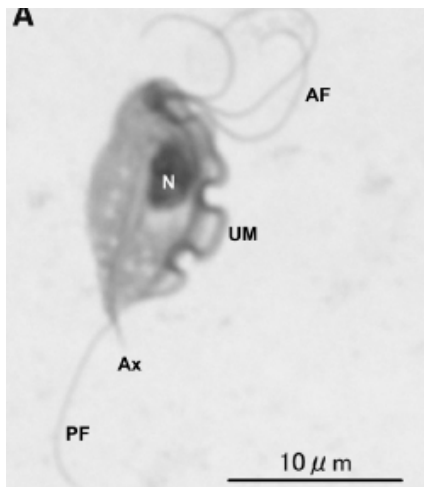
猫と牛の*T.foetus*

- ・形態学的に相違なし
- ・遺伝子学的に相違あり→猫由来株を新種*T.blagburni*と提唱
(Walden et al.)

会議のコメント

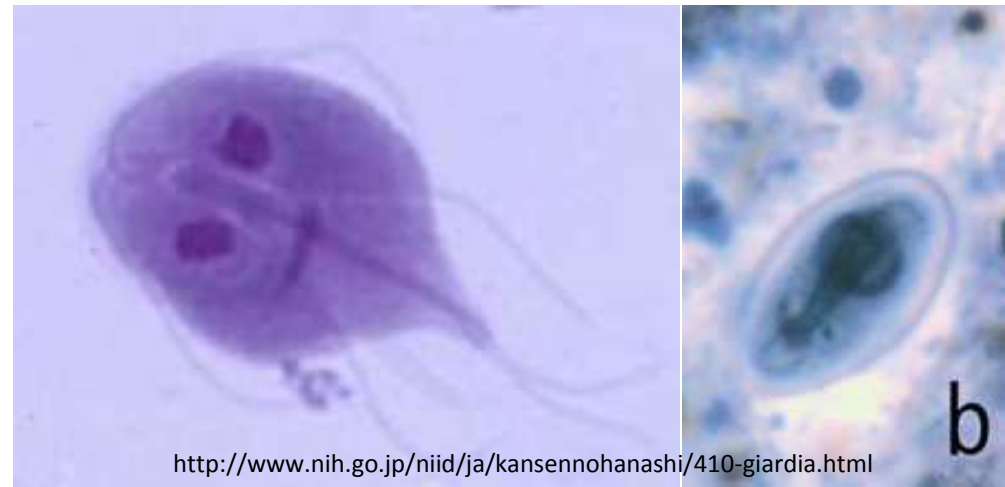
トリコモナスの特徴（ジアルジアとの鑑別点）

- 特徴的な波動膜
- シストを欠く
- ジアルジア治療用の抗原虫薬に抵抗性



Trichomonas foetus

出典：Veterinary Research(2015)46:35



Giardia 栄養体（左）、シスト（右）

出典：国立感染症研究所

バイオプシーサンプルを得る際の留意事項

- すべてのサンプルでトリコモナスが観察されるわけではない
→ 複数の部位からサンプリングすることが重要